

## 競技規則改正の概要

主な改正および明確化された点の概要を示す。

### 第 1 条

- チーム役員は、RRA に入れば警告(YC)され、VORに入れば退場(RC)を命じられる。

### 第 3 条

- 交代で退く競技者は、主審から指示された場合を除き、境界線の最も近い位置からフィールドを出なければならない。

### 第 4 条

- シャツの各袖とまったく同じマルチカラーや色の柄のアンダーシャツの着用は、認められる。

### 第 5 条

- プレーが再開されたならば、主審は再開時の判定を変えることはできない。しかし、ある状況下であれば、プレー再開前の事象のためにイエローカード/レッドカードを示すことができる。
- 主審が VAR レビューのために、また、各ハーフの終了時に競技者を呼び戻すためにフィールドから出た場合でも、判定を変えることができる。
- チーム役員が不正行為に対してイエローカード/レッドカードを示すことができる。もし不正を働いた者が特定できなかったならば、テクニカルエリア内のより上位のコーチにイエローカード/レッドカードが示される。
- ペナルティーキックが与えられた場合、そのチームのペナルティーキックを行うキッカーは負傷の状況の確認や治療を受けることができ、そのままフィールド内に留まり、キックを行うことができる。

### 第 7 条

- “クーリングブレイク”と“飲水タイム”の違いを明確化した。

### 第 8 条

- トスに勝ったチームは、キックオフも選ぶことができる。
- ドロップボール - (プレーがペナルティーエリア内で止められたならば)ボールはゴールキーパーにドロップされる。または、最後にボールが触れられた位置で、最後にボールに触れたチームの 1 人の競技者にドロップされる。(両チームの)その他すべての競技者は、ドロップの位置から 4m(4.5 ヤード)以上離れなければならない。

### 第 9 条

- ボールが主審(または、その他の審判員)に当たり、ゴールに入ったり、攻守が変わったり、あるいは、それにより新たな攻撃が始まった場合、ドロップボールとする。

### 第 10 条

- ゴールキーパーは、相手ゴールにボールを投げ入れて得点することができない。

### 第 12 条

- ハンドの反則に関する文章が修正され、“意図なく”ボールが手に当たったときに“反則とする”(反則としないのか)場合のガイドラインがより明確になって、より明瞭で一貫性あるものとなった。
- ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で“不正に”ハンドの反則を犯した場合、イエローカード/レッドカードにならないことが確認された。
- ゴールキーパーがチームメイトからのスローインや意図的にパスされたボールをけったりプレーに戻そうとしたものが失敗した場合、その後、ボールを手で扱って良い。
- 主審は、反則を受けたチームがクイックでフリーキックを行い、得点の機会を得た場合、次にプレーが停止されるまで、イエローカード/レッドカードを示すのを待つが良い。
- その後得点が認められなかった場合でも、“不適切な”得点の喜びに対するイエローカードは消えない。

